

J A運動の実践組織として更なる躍進を



宮崎県農業協同組合中央会

会長 横山 勉

宮崎県農協青年組織協議会が昭和33年に発足し、ここに50周年を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。

本県農業の振興を始め、地域農業の実践者として、多彩な活動と学習を重ねてこられたJA青年部の皆様、そして組織の先導者として日夜ご奮闘をいただいた歴代委員長・役員のご尽力に対し、心から敬意を表したいと存じます。

青年部発足から今年で50年を迎えられ、この間、わが国の農業・農村を巡る情勢は、食料増産・選択的拡大から、米をはじめとする生産調整型の時代を迎え、農畜産物の低迷、牛肉・オレンジの輸入自由化、米市場開放阻止運動、WTO農業交渉、EPA交渉という大激変の道を歩んできました。

このような大きな時代の流れの中で、本県の青年部はJA運動の先駆者として、また実践者として県内外で組織活動、農政運動さらには地域貢献活動を展開してこられました。

また、食農教育の原点であります「農家のおじちゃんと語る会」の活動は、組織活動の実践と盟友の結束力の証であり、脈々と受け継いできた諸先輩方の熱き思いと歴史が、第36回日本農業賞特別部門・第3回食の架け橋賞優秀賞受賞となって実を結んだことは大変喜ばしいことと存じます。

こうした中、政府では、新たな食料・農業・農村基本計画策定に向けての検討が始まりました。JAグループとしましても、食料・農業・農村基本法の理念に基づき将来わが国農業・農村のあるべき姿を見据え、持続可能な農業の確立、農村地域の活性化等を政府・与党に働きかけていくところであります。

農業経営は過去に類をみない厳しい状況に直面しておりますが、この局面を乗り越え、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言をされますことを期待します。

最後になりますが、JA県農青協が結成50周年を機に、今後も本県の地域農業を支え、活力ある組織運動となりますよう、そして、本県農業の後継者・地域のリーダーとして、営農振興に取り組みれますよう、さらに結束を深められ、協同組合運動の実践組織として、未来に向けて大きく躍進されますことをご祈念申し上げます。